

第 3 委員会報告資料

博多港港湾計画（改訂）の原案及び
パブリック・コメントの実施について

平成 27 年 6 月

港 湾 局

博多港港湾計画(改訂)の原案及びパブリック・コメントの実施について

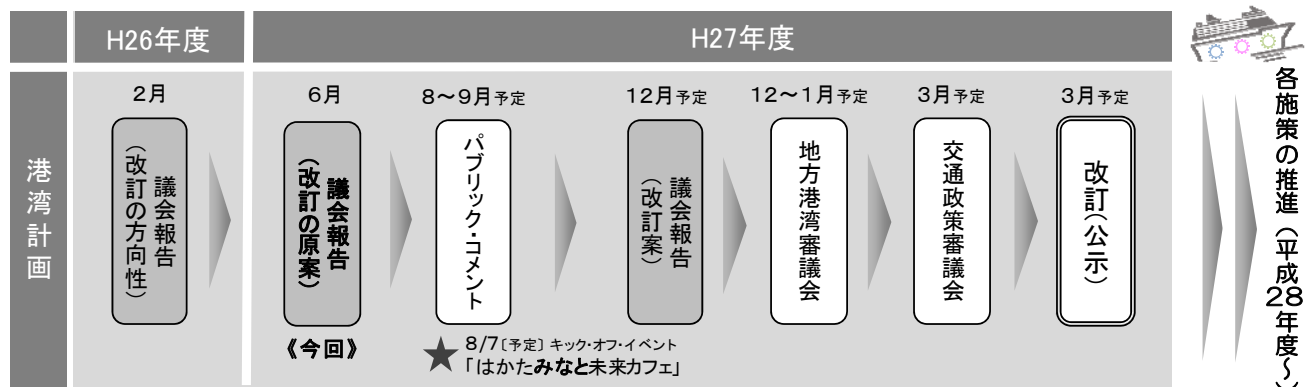
1. 改訂の趣旨

- ・港湾計画とは、港湾の開発、利用及び保全に関する基本となる法定計画であり、10年から15年程度の将来に向けた、港湾整備や管理運営等の指針となるもの
- ・現行の「博多港港湾計画」は平成13年7月に改訂しており、その後の社会情勢の変化や博多港を取り巻く環境の変化などを踏まえ、新たな港湾計画を策定するもの

2. 博多港港湾計画(改訂)の原案について

- ・別紙のとおり

3. 策定の流れ(今後の進め方)



4. パブリック・コメントの手続きについて

・意見募集期間

平成27年8月7日(金)から平成27年9月6日(日)まで(必着)〔予定〕

・資料の閲覧・配布場所

情報公開室(市役所2階)、情報プラザ(市役所1階)、各区役所情報コーナー・出張所、港湾局計画課(福岡市博多区沖浜町12-1博多港センタービル8階)で閲覧・配布
福岡市・港湾局のホームページで閲覧

・意見の提出方法

住所、氏名(法人その他の団体の場合は、所在地、団体名、代表者名)を明記の上、縦覧・配布場所で提出していただくか、郵便、ファックス、電子メールで下記に送付

<宛先> 福岡市 港湾局 計画課 郵便: 〒812-8620 福岡市博多区沖浜町12-1

FAX: 092-282-7771

電子メール: keikaku.PHB@city.fukuoka.lg.jp

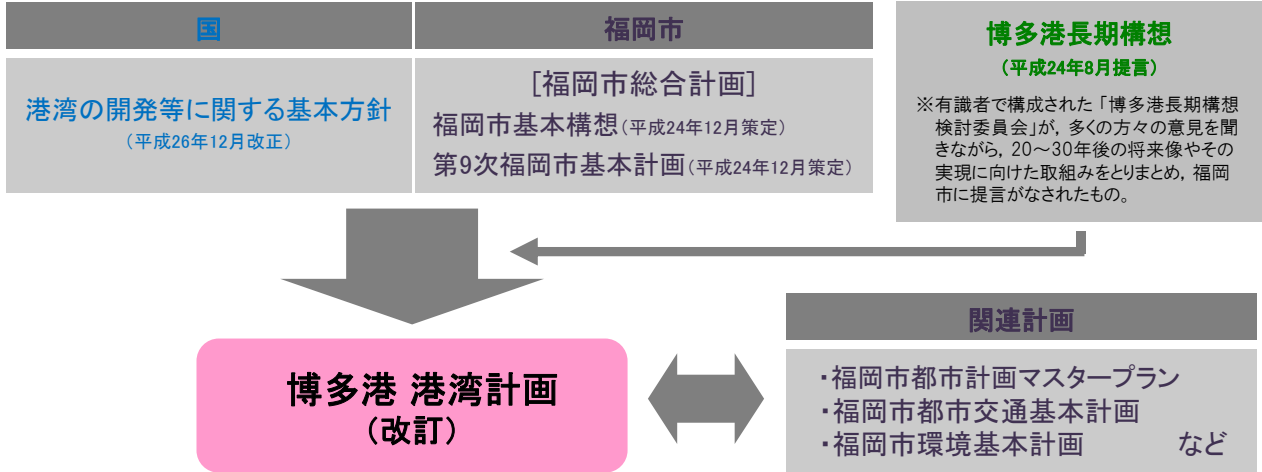
・周知方法

市政だより(8月1日号予定)、福岡市・港湾局ホームページ等でお知らせ

博多港港湾計画(改訂)の原案について

1. 港湾計画の位置づけ

『博多港港湾計画』は、国の基本方針や福岡市総合計画、博多港長期構想の提案、ならびに今後のみなとづくりの課題などを踏まえて定めます。



【参考】

■ 港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針(平成26年12月改正)

- 今後の港湾の進むべき方向
 - 1 産業の国際競争力と国民生活を支える物流体系の構築
 - 2 国民の安全・安心の確保への貢献
 - 3 良好な港湾環境の形成
 - 4 活力のある美しい港湾空間の創造と適正な管理
 - 5 新たな海洋立国の実現に向けた海洋政策の推進
 - 6 ストック型社会に対応した効率的・効果的な事業
- 港湾機能の拠点的な配置と能力の強化
- 港湾相互間の連携の確保
- 良好な港湾・海洋環境の形成及び循環型社会への対応
- 港湾の効率的な運営 など

■ 福岡市基本構想(平成24年12月策定)

- 都市像
「住みたい、行きたい、働きたい。アジアの交流拠点都市・福岡」
- 1 自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市
- 2 自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市
- 3 海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市
- 4 活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市

■ 第9次福岡市基本計画(平成24年12月策定)

- 目標年次:平成34年度
- 都市経営の基本戦略
 - (1) 生活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出す
 - (2) 福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う

● 分野別目標など

- 【都市像1, 2】
 - 目標1 一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている
 - 目標2 さまざまな支え合いとつながりができている
 - 目標3 安全・安心で良好な生活環境が確保されている
 - 目標4 人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている
- 【都市像3, 4】
 - 目標5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
 - 目標6 経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている
 - 目標7 創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している
- ★ 目標8 国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている
⇒ 主な施策: 成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくり など

■ 博多港長期構想(平成24年8月提言)

- 基本理念(キャッチフレーズ) 『アジアの中で輝きを放つオンリーワンのみなとづくり』
- 将来像
 - 物流: アジアと世界へつながる元気なみなと
 - 人流: アジアと新たな交流時代のみなとまち
 - 環境: 自然と共生した環境先進港

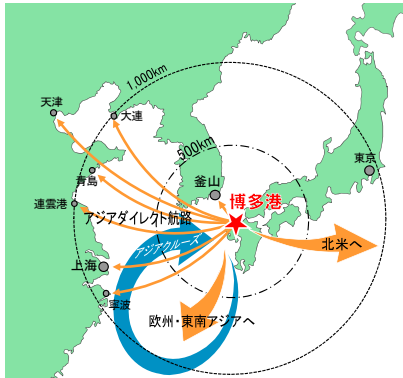
博多港港湾計画(改訂)の原案について

2. 博多港の現状と今後のみなとづくりの課題

■ 博多港の優位性のさらなる発揮

今や世界のヒト・モノの流れは、成長著しいアジアを中心に展開されています。このような中、東アジアに近く歴史的にも深い繋がりを持つ博多港は、その成長と活力を取り込む絶好のポジションにあります。そのため、わが国におけるアジア最前線のゲートウェイである博多港が果たしていく役割は大きく、アジアに近接した地理的優位性や陸・海・空の輸送モードが集積する交通利便性などのポテンシャルを活かしたみなとづくりに取り組む必要があります。

■ 博多港はアジア最前線のゲートウェイ



■ 海・陸・空の輸送モードが半径5kmに集積

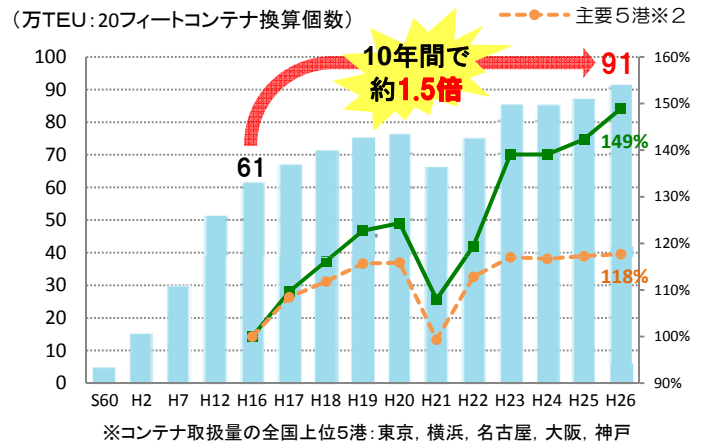


■ 物流の拡大等への対応

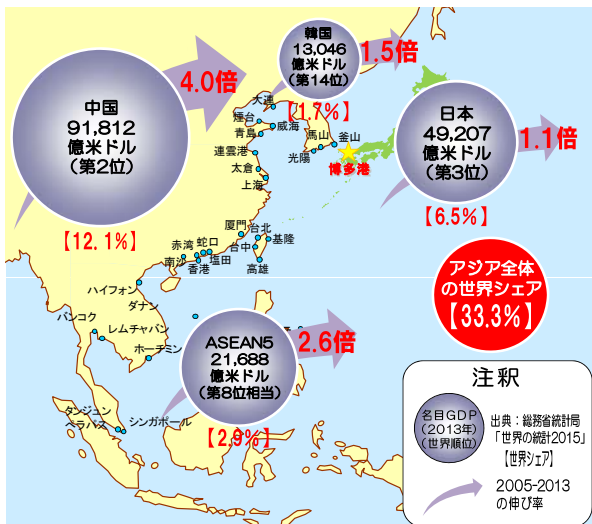
アジアの経済成長や貿易の自由化の進展、北部九州への自動車産業の集積などにより、九州の輸出入コンテナ貨物の5割以上を担う博多港の取扱貨物量は今後も増加することが見込まれます。また、船舶の大型化も進み、これらに対応した施設整備や、安全かつ円滑な航行を確保するための浚渫が継続的に必要となっています。

一方、厳しい財政状況の中、今後増大する老朽化施設への対応等が課題であり、既存施設を最大限に活用した戦略的なアセットマネジメントの展開や高効率な港湾運営が必要となります。

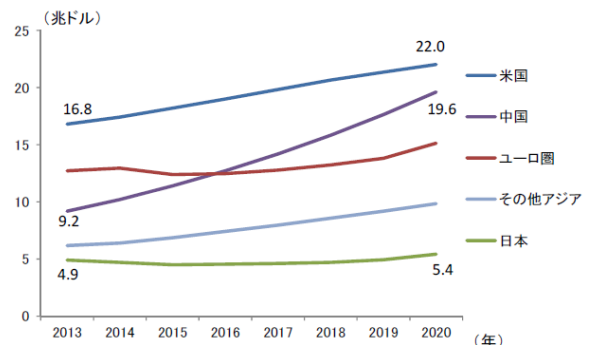
■ 国際海上コンテナ取扱個数



■ アジアの経済成長



■ 主要国・地域の名目GDP予測推移



(注) その他アジアはNIEs、ASEAN5、インドの合計。
(資料) IMF、各国・地域統計より、みずほ総合研究所作成

博多港港湾計画(改訂)の原案について

■ 高速物流ネットワークへの貢献

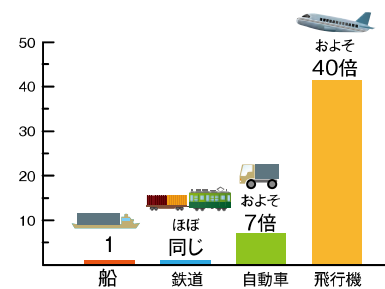
博多港には、高速性・定時性に優れ、精密機械等の輸送にも適したRORO船が国内外に就航しています。国際RORO船は、鉄道との円滑な接続により、航空輸送に匹敵するスピードと低環境負荷の輸送を実現することができます。昨今、日中韓の3国間で車両の相互通行などの規制緩和がなされるなど、今後さらなる活用が期待されており、博多港にはこれに貢献するみなとづくりが求められています。

※「Roll-On Roll-Off」の略。貨物を積んだ車両が直接船内に入出りして荷役する貨物船。

■ 船舶と鉄道的高速物流ネットワーク



■ 輸送手段別CO2排出量の比較



出典: 交通関係エネルギー要覧(平成19年度版)

■ 日本一の国際旅客客港としての取組み

博多港は、韓国釜山港との定期航路やアジアからのクルーズ船の寄港により、国際乗降客数が22年連続日本一の港であり、国が成長戦略の柱の一つと掲げる観光立国の推進に大きく貢献しています。

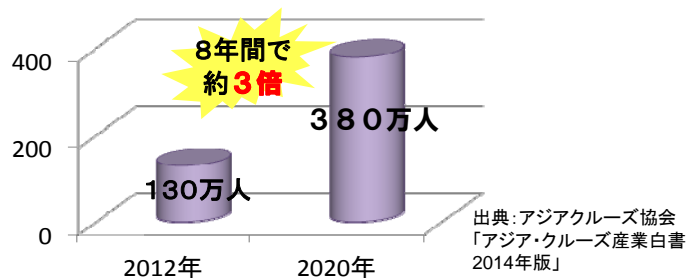
近年、アジアのクルーズ市場の急成長により、クルーズ船の大型化が進み寄港回数も急増していますが、クルーズ船を受け入れる岸壁や旅客施設が十分ではないため、受入環境の強化が急務となっています。



■ 外航クルーズ船 乗降客数と寄港回数



■ アジアクルーズ人口の予測



■ 都心の新たな拠点づくり

天神や博多駅などの都心に近い中央ふ頭・博多ふ頭には、国内外から多くの旅客船が寄港し、またコンベンション施設も集積するなど、多くの来街者が訪れており、ウォーターフロントネクストとして世界中から人々を惹きつけ、アジアの活力を取り込み、アジアの中で存在感のある地区を目指した再整備に取り組んでいます。

一方で、市民が気軽に楽しめる海辺空間や賑わいが不足するなど、市民にとって身近な場所となっていないことや、貨物も取り扱うふ頭であることから、人流機能と物流機能の調和を図る必要があります。

■ 自然と人が共生する持続可能な環境づくり

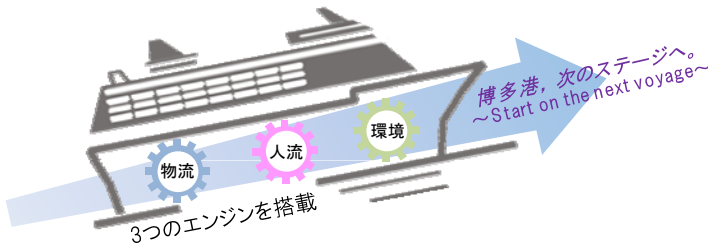
市民の暮らしや価値観が多様化する中、市民が自然環境とふれあう場の創造や、港を感じ、憩いや楽しみを提供する魅力ある空間の創出が必要となっています。

また、地球温暖化対策として、低炭素物流を促進していく必要があります。

博多港港湾計画(改訂)の原案について

3. 方針

博多港は豊かな暮らしや雇用創出に貢献するとともに、アジア・世界とのゲートウェイ機能を高め、わが国の成長を牽引していくため、**‘活力と存在感に満ちた「日本の対アジア拠点港」’**をめざし、「物流」「人流」「環境」の視点を柱とした3つのエンジン（方針）で今後のみなとづくりを進めていきます。



方針1
〔第1エンジン〕

都市の成長を牽引するみなとづくり

市民生活や経済活動を支える港湾物流の安定的かつ効率的な活動を促進するため、使いやすさ世界トップレベルのみなとをめざし、物流の拡大や海運動向等に対応した港湾機能の強化や港の機能再編に取り組みながら、アジア・世界とのゲートウェイ機能を高め、都市の持続的な成長に繋げていきます。



方針2
〔第2エンジン〕

交流を促進し親しまれるみなとづくり

日本一を誇る国際旅客港として、定期旅客機能の充実や日本一のクルーズ拠点港となる受入環境の強化とともに、貴重な水辺を活かした賑わい空間の創出を図ることで、市民や国内外の方々の交流を促進し、親しまれる魅力的な海の玄関口づくりを進めます。



方針3
〔第3エンジン〕

環境を守り・育てるみなとづくり

人と自然との共生をめざし、自然豊かなエコパークゾーンを中心に、市民との共働による環境の保全と創造の取組みを促進するとともに、水底質の改善や野鳥公園の整備などを図ります。

また、環境負荷の少ない荷役機械の導入を促進するなど低炭素型輸送を促進します。

4. 目標年次と港湾の能力(目標値)

■平成30年代後半

※目標年次は概ねの期間を示すもので、目標年次までに完了するという性格のものではありません。

	現状 (平成26年 ※速報値)	目標値 (平成30年代後半)
国際海上コンテナ取扱個数	91万TEU	130万TEU程度
外国航路船舶乗降人員	87万人	270万人程度
外航クルーズ寄港回数	99回	400回程度

(注)TEU: Twenty-foot Equivalent Unit
20フィートコンテナ換算個数1個のこと

◎港湾の能力(目標値)など港湾計画に定める事項の詳細については、皆様のご意見や今後の関係者との協議を踏まえ、博多港地方港湾審議会と国土交通省に設置されている交通政策審議会等を経て決定されることになります。

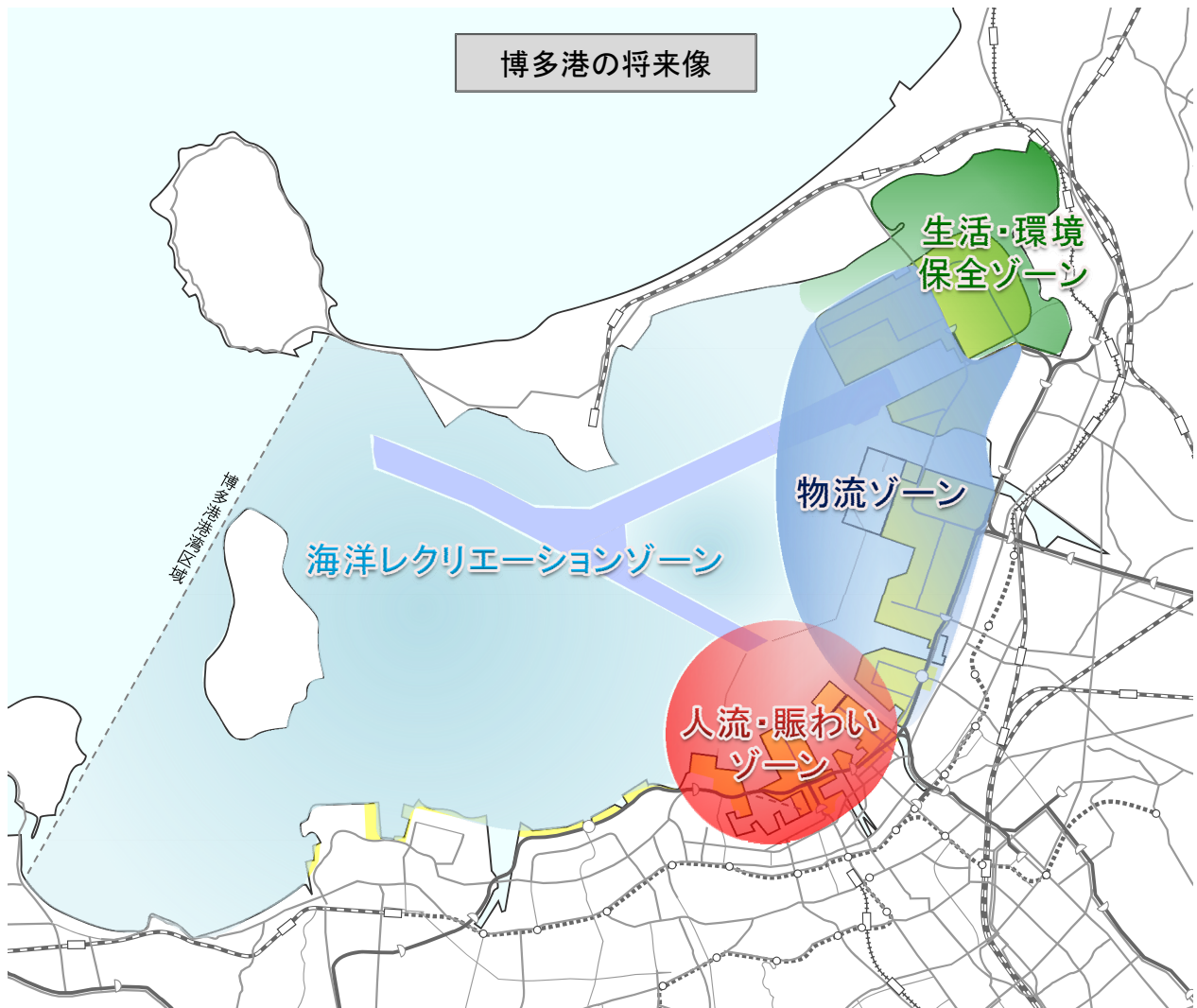
博多港港湾計画(改訂)の原案について

5. 長期展望

長期的には、下記のような将来像を念頭に、みなとづくりを進めていくべきと考えます。

将来にわたって、福岡ひいては我が国が国内外との交流を拡大しながら持続的に発展していくには、交流の玄関口である博多港の役割はますます大きくなると考えられます。

平成30年代後半を目標とする今回の博多港港湾計画の改訂は、博多港の将来像の実現に向けた第一歩となるものです。



ゾーニング	内容
物流ゾーン	高速道路や鉄道貨物ターミナルなどとの近接性を活かし、海上コンテナや生活物資、産業資材、エネルギーなど多様な貨物を扱い、市民生活や経済活動を支えるゾーン。
人流・賑わいゾーン	都心部に隣接する交通利便性などを活かし、国内外から多くの人々が訪れる海の玄関口となり、また、市民が海に親しめ、賑わいに溢れ良好な景観を有する交流の拠点となるゾーン。
生活・環境保全ゾーン	福岡の将来をリードする良好な住環境や先進的な産業の場を有するとともに、自然環境を保全・創造するゾーン。
海洋レクリエーションゾーン	海域や陸域の豊かで美しい環境を保全し、市民が海や自然と触れ合い、楽しめ、利用できるゾーン。

博多港港湾計画(改訂)の原案について

6. 計画内容

方針1 都市の成長を牽引するみなとづくり

物流

① コンテナターミナルの機能強化

- ・船舶の大型化やコンテナ取扱量の増大に対応するため、大水深のコンテナターミナルを整備する。
【計画内容: -15m岸壁(耐震強化岸壁)(既定計画)】
- ・コンテナターミナルの効率的な運営のため、コンテナヤードを拡張する。
- ・ターミナルと一体となった物流施設の集積・立地を促進するため、「臨海部物流拠点の形成を図る区域」を拡張する。

② 国際・国内ROROターミナルの機能強化

- ・国際RORO機能をアイランドシティから箱崎ふ頭に移転し、国内RORO船や貨物鉄道との接続を強化する。あわせて、将来的な船舶の大型化、新規航路への対応した既存岸壁の増深等とともに、大規模震災時のコンテナ輸送に資する耐震強化岸壁を整備する。 【計画内容: -7.5m岸壁 ⇒ -10m岸壁×1バース(耐震強化岸壁)】

③ 自動車輸出拠点の形成

- ・自動車輸出台数の増加や船舶の大型化に対応する、既存岸壁の増深やヤードを拡張する。
【計画内容: -7.5m, -11m岸壁 ⇒ -12m岸壁×2バース】

④ 臨港交通ネットワークの形成

- ・臨港地区と都市部を繋ぐ幹線道路の整備による、円滑な臨港交通体系の形成を図る。
【計画内容: 自動車専用道路(4車線), ふ頭間道路(4車線)(既定計画)】

⑤ 既存ストックを活用した港湾施設の機能再編(ビルド&スクラップ)

- ・老朽化ならびに利用の低下した岸壁において、利用の転換や機能の廃止を進める。
- ・需要が低下した水面貯木場(原木保管のための水域)を廃止し、この水域空間を活用して将来的な物流再編の種地を形成する。 【計画内容: -7.5m岸壁×2バース】
- ・北天神地区やウォーターフロント地区の将来的なまちづくりの動向などに応じて、博多港全体での港湾機能の再編を検討する。

⑥ 防災拠点の形成

- ・大規模震災時における緊急物資輸送に資する耐震強化岸壁の整備とともに、救援活動等の拠点となるオープンスペース(緑地)を確保する。 【計画内容: -9m岸壁(耐震強化岸壁), 緑地】

⑦ 安定的な航路維持と土砂受入先の確保

- ・船舶の安全かつ円滑な航行を確保・維持するため、中央航路等の整備や、継続的に発生する浚渫土砂を安定的に受け入れる海面処分場を整備する(約60ha)。これに伴い、防波堤の一部撤去、係留施設を廃止する。

第1エンジン

方針2 交流を促進し親しまれるみなとづくり

人流

⑧ クルーズ船受入環境の強化

- ・クルーズ船の増加や大型化に対応するため、中央航路の拡幅とともに、大型クルーズ船の2隻同時着岸と世界最大級のクルーズ船の受入を可能とする岸壁の延伸等を図る。
【計画内容: -12m岸壁×1バース, 中央航路の拡幅(幅:300m⇒370m)】
- ・国際フェリーやクルーズ船などに対応した多目的に利用のできる岸壁を整備する。
【計画内容: -9m岸壁×1バース(耐震強化岸壁)(再掲)】

⑨ ウォーターフロントの活性化

- ・都心部の新たな拠点として、貴重な水辺を活かした賑わい空間やシンボリックな広場などの交流空間の創出に向けた土地利用の見直しを図る。
- ・小戸ヨットハーバーにおいて、民間事業者のノウハウや活力による利用促進などを図る。

⑩ 良好な景観形成

- ・今後のウォーターフロント再整備にあわせて、道路空間の高質化や賑わいの演出など、良好な景観形成を図る。

第2エンジン

方針3 環境を守り・育てるみなとづくり

環境

⑪ エコパークゾーンにおける環境の質的向上

- ・(仮称)野鳥公園の整備や海域での水底質の改善、ならびに市民との共働による環境の保全と創造を促進する。

⑫ 港湾活動における環境負荷の低減

- ・船舶と鉄道輸送との連携強化や、環境配慮型荷役機械の導入などを促進する。

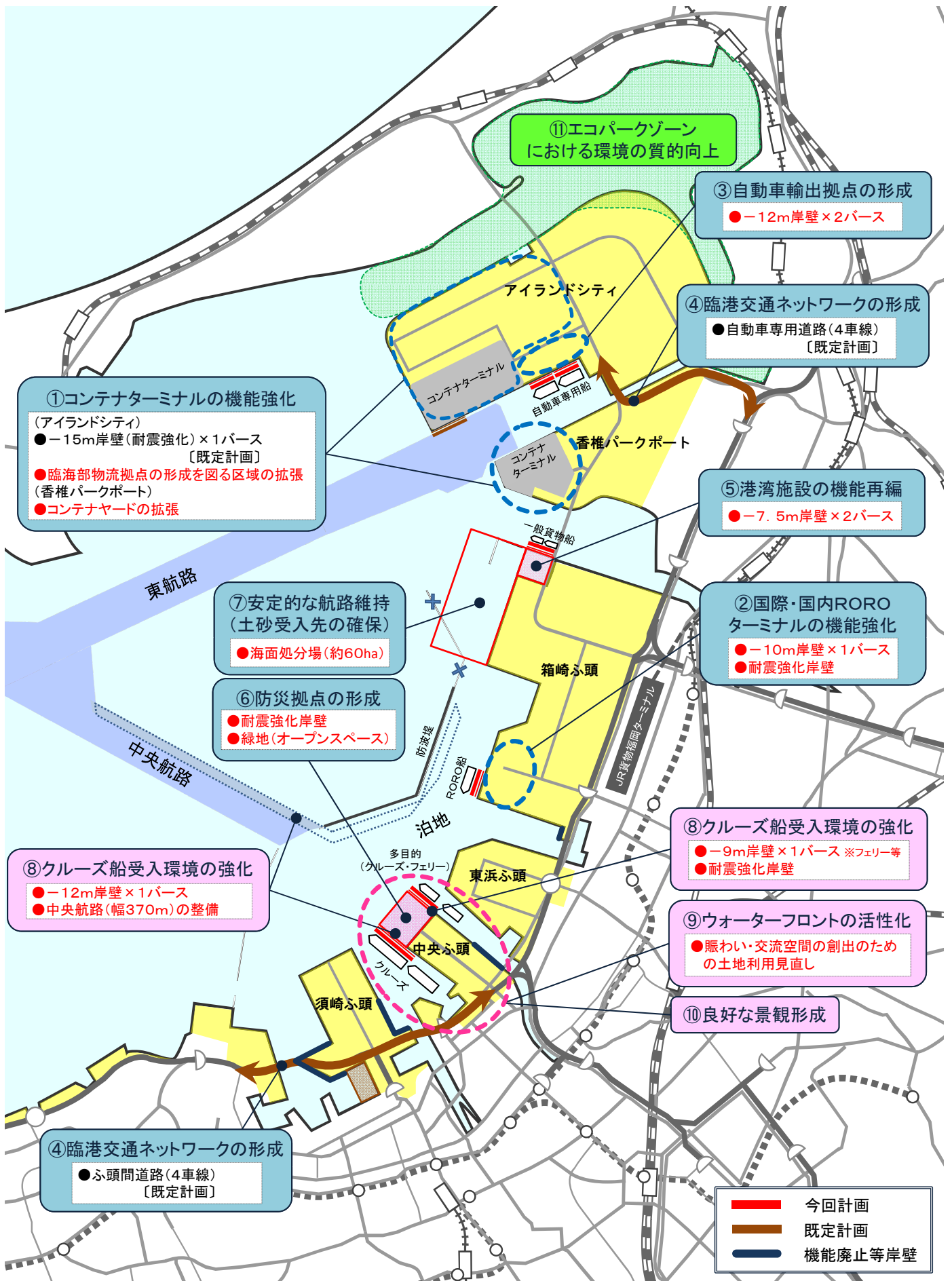
⑬ 緑地の適正な配置

- ・周辺環境に応じて緑地の規模等を見直す。

② 国際・国内ROROターミナルの機能強化【再掲】

⑩ 良好な景観形成【再掲】

第3エンジン



◎ 港湾施設の規模など港湾計画に定める事項の詳細については、皆様のご意見や今後の関係者との協議を踏まえ、博多港地方港湾審議会と国土交通省に設置されている交通政策審議会等を経て決定されることになります。